

1 F 港湾内海底土被覆工事（その2） の工事概要について



前回工事での作業状況（5/6号機取水口前）

平成26年6月27日
東京電力株式会社



東京電力

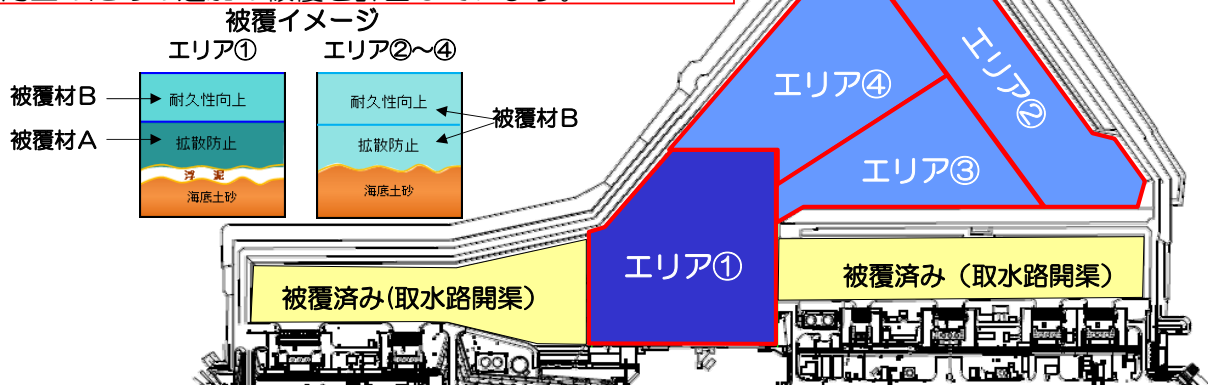
1. 概要

<工事概要>

目的：港湾内海底面を被覆し、海底の汚染物質の拡散を防止する
 被覆面積：約18万m²
 予定工期：H26.4～H27.3末【12ヶ月】（拡散防止を完了）
 H27.4以降（必要に応じ、耐久性確保のための被覆）

被覆面積 約180,600m²
 エリア①（浮泥堆積）： 約50,900m²
 エリア②～④（浮泥無）：約129,700m²

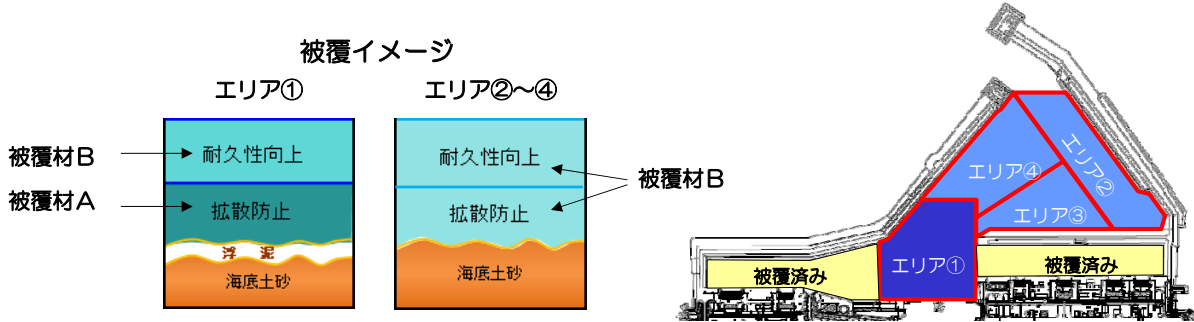
拡散防止を目的にH26年度末までにエリア①は被覆材A、
 エリア②～④は被覆材Bを港湾全域に被覆（厚さ10cm程、
 度）を実施します。その後、H27年度に状況を確認後、耐
 久性向上のための追加の被覆を計画しています。



浮泥：海底面に堆積し、海水の流れ等で容易に移動する泥

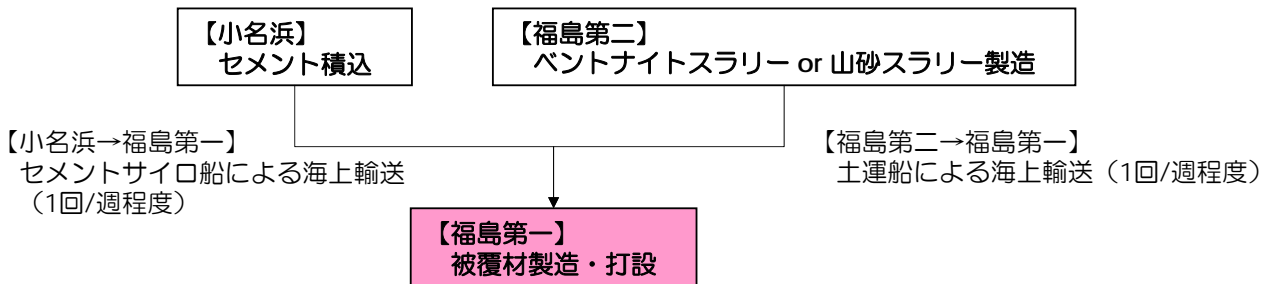
2. 施工順序・材料

- 汚染拡散防止の観点から、H27.3末までに港湾内全域を被覆し、その後必要に応じて、耐久性確保のための被覆を実施する。
- 浮泥は海水の流れ等で容易に移動するため、浮泥が確認されたエリア①を最初に被覆する。その後、エリア②③④の順に被覆する。また、エリア①では、浮泥を封じ込めるために軽量の被覆材Aを用いる。
- 以上の海底土被覆の基本方針については、取水口前面にて実施済の被覆工事と同様。

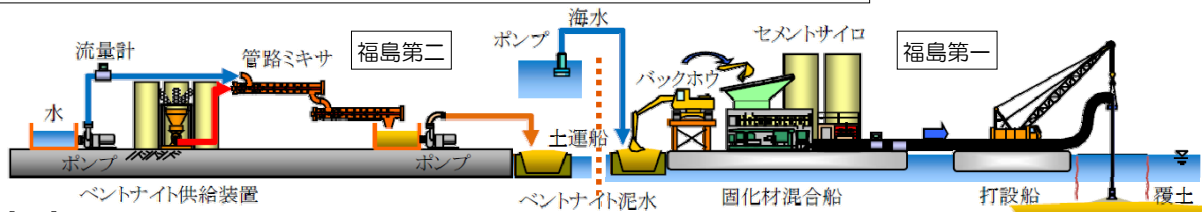


材料	要求性能
被覆材A	【浮泥の封じ込め】 浮泥の下に潜り込まないように浮泥と同等の密度（1.1g/cm ³ 程度） 配合： ベントナイトスラリー + セメント
被覆材B	【耐久性確保】 海水による浸食等に対して耐久性を有する強度，厚さ （一軸圧縮強度 $\geq 300\text{kN/m}^2$ ，厚さ $\geq 10\text{cm}$ → 50年以上の耐久性） 配合： 山砂スラリー + セメント

3. 施工方法



福島第二にスラリープラントを設置した海上施工システム（被覆材Aの場合）



4. 工程

工種	平成26年度		平成27年度	
	上期	下期	上期	下期
準備工 (プラント設置等)			▽ H27.3末 海底土拡散防止対策完了	
海底土調査				
配合試験				
深淺測量	被覆前 	エリア①被覆後 	全域被覆後 	耐久性確保後
被覆工	▽ H26.6末～開始予定 		耐久性確保 (必要に応じ) 	
プラント撤去等				

工事工程は、海象状況や資機材輸送等に伴う港湾利用状況により変動する可能性がある